

九州のなかま

2008 - 13

春闘情報: NO. 1

発行日 : 2009年1月28日(水)

発行者 : 生協労連 九州地連

九州地連春闘組合学校

10の分科会で活発な論議をおこないました!

1月24日(土)～25日(日) 佐賀・川上峡温泉龍登園に173名結集

うっすらと雪化粧した佐賀川上峡温泉に九州各地から173名のなかまが集いました。外は今冬一番の寒波で冷え込みましたが、会場は参加したなかまの熱い思いで熱気に満ちていました。開催県代表挨拶でコープさが労組委員長西津さんは、「今年度またたまむし色ではあるが、累積欠損を解消できそう、今後は労働者の賃金・処遇を改善していきたい」、と述べ続いてコープさが理事長の村田さんからは、この間のさかの再建に向けての九州のなかまからの応援や支援に対して「お礼」と、今後の九州地連の活動への「激励」の挨拶がありました。1日目の全体会では、生協労連九州地連春闘方針について中山書記長から、「景気の後退や事業の困難性等とあいまって情勢負けしない議論がきわめて重要となっている。人間らしい働き方と安心して暮らせる賃金をめざしたい」、との提起がありました。また永吉副委員長より、方針の補強及び行動提起が行なわれ、「働くルールの確立を、雇用を守るとりくみ(最賃闘争で大きなとりくみと前進を「2・12 13中央行動」の九州の参加目標36人以上)、均等待遇の実現をめざして、すべての労働者の賃金

連九州地連
009年春闘組
2009年1月24日



の底上げ等、が重点課題として掲げられました。その後10の分科会に分かれてテーマ毎に意見交換や交流が行なわれました。また今年は業態別分科会を設け、その中で福祉・介護の現場で働くなかまが、現場の実態や問題点などを出し合い交流しました。

2日目は生協労連鈴木書記長の「情勢」の提起に続いて、「労働者がまっとうな仕事と処遇を確保できる社会をめざして」と題して桜美林大学の鬼丸朋子準教授の学習講演が行なわれました。正規労働者としての「働きづらさ・生きづらさ」と非正規労働者としての「働きづらさ・生きづらさ」がセットになっている日本の雇用・労働の在り方、日本におけるワークライフバランスの現状では、正規労働者の女性を中心に展開していて、非正規労働者への展開の遅れなどきわめて不十分なとり組みとなっていること。それは政府主導で、労働政策の色彩が濃いものとなっている。従来の日本の雇用・労働のあり方を変える必要がある、...等々。

2日間学んだこと、なかまと論議したことを生かして、「労働者の権利が保障され、通常の収入で本人とその家族を養う程度の水準が確保され、適切な社会的保護が供与される生産的な仕事」とそれに見合う処遇を求めて09年春闘、共にならぼう!!

お願い: 2009年春闘関連の取組み 他の情報を地連まで FAX: 092-947-9193